

教職課程の目標

稚内北星学園大学（以下「本学」と言う）情報メディア学部（以下「本学部」と言う）は、教職課程において以下の三種類の免許状を取得できる。

- ・ 中学校教諭一種免許状（数学）
- ・ 高等学校教諭一種免許状（数学）
- ・ 高等学校教諭一種免許状（情報）

本学部は、情報メディアの発展が社会の変容を促すと捉え、その社会変容に対応できる人材を育成する目的で設置された。本学部のディプロマ・ポリシーでは、本学部の教育によって「情報メディア基礎力」「情報メディアの開発とその多面的な活用ができる専門能力」「地域貢献力」の3つの力を修得できると述べている。

情報メディア学はさまざまな学問領域を内包する学際的な学問であるが、とりわけ「情報」と「数学」の重要性が高い。「情報」については、その科学的な理解に基づいたうえで情報を取得し、判断し、編集し、発信するリテラシー的な能力が社会で求められていることは言うまでもないが、現代社会をより豊かに、安全に、快適に過ごすことを目的として新たな情報メディアを開発し社会に供給することも併せて重要なことである。本学部では、情報メディアの根幹として「情報」を位置づける。学生は「情報」に関わるリテラシー的な能力を獲得することはもちろん、情報メディアの開発やその社会的な側面についても学修する。「数学」については、現代社会に必要不可欠な物事を量的に計測する能力を涵養できることはもちろん、社会現象および自然現象を記述する言語としての性質を持つ数学を学ぶことは諸科学を学ぶ際の重要な基盤となる。また、学生が数学を学ぶことで抽象的な事象の取扱いに習熟できるとともに、論理的な思考を涵養できることが期待できる。本学部では、情報メディアの基礎を形成する学問として「数学」を位置づける。学生は数学そのものを深く理解し、情報メディア社会への技術的な応用について学ぶとともに、数学を用いて社会現象を定量的に捉え、演繹的に推論をおこなう手法についても学修する。さ

らに現代社会では、「情報」と「数学」の両分野に跨る事項として、人工知能や機械学習のように、多くの情報からその特徴を抽出し、新たな価値を創出するような応用への需要が高まっている。本学部では、これら「情報」と「数学」を情報メディア社会における基礎と位置づけるとともに、学生がそれぞれの関心に応じてそれらの内容を深く学ぶことで、情報メディア社会で活躍できる人材を輩出することを目標としている。

一方、「道北宗谷地域に高等教育機関を」という地域の願いをもとに、稚内市による公設民営方式による大学として発足した本学は、学則第1条に「地域社会に貢献」することを謳っており、地域社会との連携に力を注いできた。さらに2014年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことは、地域連携をこれまで以上に深く、組織的に実施する契機となった。「地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備」と題した本学COC事業では、「地域の教育力向上」を事業における三本柱のひとつとしている。これは、稚内市および周辺地域の小・中学生への学習支援に本学教職課程の学生が参画することによる教育力向上と、現職の小・中学校教員への支援を実施することによる教育力向上の二点を目指している。前者については、稚内市・利尻町・豊富町・猿払村の小・中学生に対する学習支援が既に実施されており、これらの活動は教職課程学生の意欲と教育技術の向上に大きく寄与したほか、当該市町村との包括連携協定の締結に結びついた。後者については、2009年から開始した教員免許状更新講習の実施と、2014年度から開始したICT利用教育への教員向け支援が挙げられる。近隣に高等教育機関が存在しない中での本学のこうした活動は、稚内および周辺地域の教育委員会の活動の中に組み込まれ、必要不可欠なものとなっている。

ここまで述べた本学の教職課程の学生が学ぶ「情報の専門的知識」「数学の専門的知識」「地域の教育力向上」は、本学部のディプロマ・ポリシーの「情報メディア基礎力」「情報メディアの開発とその多面的な活用ができる専門能力」「地域貢献力」と一致する。教職課程の学生は、学際領域である情報メディア学の学修を通じて現代社会を広く学びつつ、それぞれ取得を希望する免許状に必要な教科目を情報メディア学との関連の中で深く学ぶ。同時に、学生は豊富な「地域の教育力向上」に関わる機会を活用した実践を通して現場の中で教育技術の向上をはかるとともに、教員としての意識の向上をも目指す。本学部は、学部のディプロマ・ポリシーに則った学力を有し、情報メディア社会の基盤とも言うべき「情報」「数学」を教授できる教員を養成することで、現代社会、とりわけ道北宗谷地域に貢献していきたいと考えている。

目標を達成するための計画

稚内北星学園大学（以下「本学」と言う）では、教職課程の管理と運営に関わる全学的な組織として、教職課程会議を設置している。本会議は、教職課程における「教職に関する科目」および「教科に関する科目」の担当教員ならびに事務局学生支援課職員の7名から構成されている。本会議では、教職課程の日常的な運営に関わる事項、教員免許の申請に関わる事項、教職課程に関わるカリキュラムの点検と評価について所管している。

本学の教育課程全般に関わる組織として教授会がある。教職課程に関わる事項は必要に応じて教授会でも議論される。また、情報メディア学部でカリキュラム編成を担う組織であるカリキュラム編成会議は、教職課程を含めた全学の教育課程を編成する機関となっている。

本学の地域活動全般を所管する組織として地域創造支援センターがある。その中で地域教育を担う地域教育支援室では、教職課程会議などの関連機関と連携しながら「地域の教育力向上」をスローガンとした諸活動を所管している。教職課程の学生による地域における学習支援等の活動も本支援室が所管する。

教育の質の向上に係る取組

道北宗谷地域唯一の高等教育機関である稚内北星学園大学（以下「本学」と言う）は、大学周辺の市町村、教育委員会等と連携した教育活動を行っており、「地域の中で教職志望者を育成する」という方針を徹底している。稚内市および周辺地域の教育委員会と連動した、児童生徒を対象とした学習支援活動は、教職課程学生の意欲と教育技術の向上に大きく寄与している。また、稚内市内小学校に二年次の学生を派遣する学校インターンシップは、学生が教育実習よりも早い段階で一定期間の現場体験ができる機会として、学生の意欲向上に繋がっている。そのほかにも、稚内市内の中学校・高等学校での授業見学や、稚内市内および周辺地域の管理職を含めた小中学校教員の授業への参画など、学生が教育現場を体験し、教育関係者との接触の中で成長していく機会が豊富にある。

本学内における学修支援活動については、「教職に関する科目」および「教科に関する科目」における通常の学修支援活動のほか、教員採用試験に関する対策講座などが挙げられる。教職課程学生が参加するゼミナール活動では、現代の教育に係る諸問題についての文献学習の側面と、自主的なゼミ運営を工夫し教育活動を実践的に学ぶ側面を重視している。また、学生の生活と学修、進路の相談を行う窓口としている。

教育の質を向上させるための学内施設として特徴的なものを挙げる。電子黒板、タブレット端末など中等教育の現場でも活用される ICT 機器を備えたわくほくメディアラボは、学内のアクティブ・ラーニングを支援する施設である。ここでは、学習コンシェルジュと呼ばれる学生のアクティブ・ラーニングを支援する教員からの個別指導を受けることができ、またレポートの書きかたなどのリテラシー面の向上に役立つ講座を定期的の開講している。稚内市中央商店街の一角に位置するまちなかメディアラボは、教職課程学生の教育支援活動の場となっているほか、メディア表現指導員による個別指導を受けることができる。また、大学図書館には、教職課程や専門科目に関わる図書・雑誌など豊富な文献を有している。

以上